

体の「むくみ」 軽くみていませんか？ やりすごしていませんか？

本来「むくみ」とは、どういうものか、それは皮下に余分な水分が溜まっている状態で、別名「浮腫（ふしゅ）」とも呼ばれていて、これが一般的に「むくみ」と呼ばれているものです。

そこで、なぜ「むくみ」が起こるのかを少しお話してみましよう。

人間の体の中では、動脈から身体各組織中ににじみ出た水分は、役目を終えた後には通常だと静脈やリンパ管に戻りますが、しかし、何らかの原因で静脈やリンパ管に回収されにくくなると、たまった水分に皮膚が押されて膨らんだような状態になっている、それが「むくみ」と言うことです。では、その原因はどんなことが考えられるのか？これを知ることによって普段の生活の在り方に気を付けることができますね。

どんな人に、どんなときに現れるか

日常生活上の軽度のむくみは、年齢や性別を問わず、しばしばみられる症状ですが、筋肉量や運動の機会の少ない女性とか高齢者、冷え性、食塩を多く摂る食習慣のある人、アルコール摂取後、月経中などで特に起こりやすい傾向があります。低栄養状態の人にも起こりやすいです。

「むくみ」は、大きく全身にみられる「全身性むくみ」と「局所性」という身体の限られた場所にみられる「むくみ」とに分けられ、それぞれに原因となる病気があります。原因となっている病気の治療を行なうことで、むくみの症状が改善していくことも少なくありません。

また、薬剤、特に消炎鎮痛薬や一部の経口血糖降下薬などの影響でむくみが起こることもあります。

ご自身で気になるような「むくみ」が発現したら、以下のような症状があるのかを確認してください。「むくみ」の部位はどこなのか、それは左右差はあるのか、全身性か、局所性か、いつからむくみ始めたのか、どのくらい続いているか、むくみ以外の症状が出てきているのか、あればどのような症状か、1日の中でむくみの状態に変動はあるか、そして特に気をつけなければならない症状としては、むくみとともに、息苦しさやせき、腹痛や吐き気、頻脈や動悸などがあるかですが、ある場合は遠慮なく当クリニックにご相談ください。

それらの症状があまりにもひどい場合には救急車を呼んでください。

むくみを生じる病気は多くありますが、代表的で緊急度の高い病気には、心不全や腎不全、アナフィラキシーなどがありますから、「むくみ」を軽くみないで、このような場合には、一度当クリニックを受診することをお勧めします。

朝起きたときにまぶたや顔が腫れぼったかったり、夕方になると足がむくんだりするものの、一定の時間が経つと消えるような軽度のむくみは健康な人にもよく起こるもので、特に治療の必要はありません。時間が解決します。ご心配であれば来院してみてください。



クリニック名古屋ちくさヒルズ
林祐司 院長



財団榊原会 理事長
林 衆治 先生

「再生医療」シリーズ 第2弾

前号に続くシリーズ今号では、まるで夢のような話が、夢でなくなってきたというお話をしましょう。

今や、「再生医療」の研究最前線では、**心臓や肺を「元に戻せる薬」の治験が視野に**、体内で臓器を修復できるというお話です。

病気によって心臓や肺などの重要な臓器が傷ついた場合、私たち医師は現在の最新の医療を駆使してもせいぜい損傷の悪化を食い止めることしかできません。

しかし今、海外では30年におよぶ試行錯誤の末に、患者さんの体内の**「幹細胞」を活性化**させて臓器を修復させる治療法が実現する可能性が高まってきています。**幹細胞**は、それぞれの機能を持つ細胞のもとになり、組織の成長や修復を担う細胞を生み出すのです。

米国のある非営利研究機関の研究所では、薬を使って体内の幹細胞を増殖させるという、まったく新しいアプローチを開発しているとのこと。

すでにこの手法によって、実験室の細胞、マウス、ブタ、数人のヒトの死んだ組織を蘇らせることに成功しています。

また一方では、体外(実験室)で再プログラミングした幹細胞を移植して新しい組織を成長させる従来のアプローチで、ようやく成功を収めつつある研究者たちもいるとのこと。

このまま順調にいけば、これらの手法でいつの日か、**変形性関節症など、老化と関連した深刻な病気を抱える人々の生存期間と生活の質を劇的に改善できる時代が来る**との期待が高まってきました。

今、現存する薬での多くは肺や心臓を損傷させる病気の進行を遅らせる効果しかありませんが、新しい薬の目的は損傷を回復させることにあります。上記の米国の研究所では**「私たちはあと2～3年で、肺や心臓の損傷を回復させられるようになる可能性があります」**と、研究所の最高経営責任者(CEO)兼社長は確言しております。

この治療法の研究に携わる科学者の皆さんは、安全性と有効性を確認するためには、まだヒトでの実験が必要であり、医療技術として承認されるまでに10年ほどかかるだろうと言っています。それでも彼らは、再生医療は多くの失敗を経て、ようやく峠を越えたと考えています。

ずいぶん昔の話で恐縮ですが、私が見た映画で(これは確か1980年代映画)『スター・トレックIV 故郷への長い道』には、船医のドクター・マッコイが透析を受けている患者に1錠の薬を飲ませると、たちまち新しい腎臓ができてくるという場面があり、これはさすが映画の世界だからと思いながら見ていましたが、今ではこれは再生医療の見果てぬ夢ですが、実現するのは決して夢ではないという期待感が持たれる時代が来たと言えるのではないのでしょうか。この研究成果に大きく期待したいものです。

健康の知恵袋



今、「美容男子」と言う言葉を耳にする機会が多くありますが、話題のヒト幹細胞培養上清液を使った首と手のケアを体験する人たちが増えてきていると聞きましたよ。これも再生医療ですかね。

広報紙
発行

「医療法人榊原会クリニック通信」
医療法人財団榊原会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
〒464-0858 名古屋市千種区千種2-24-2
千種タワーヒルズ1F

ご意見はこちらまで info@clinic-chikusahills.com

編集・発行 医療法人財団榊原会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
編集委員会(原稿責任者 川島和信)

発行日 毎月1日